



千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

92.10.19 No. 3676

な許転配なる止廃店売

「塩づけ」粉砕—JR当局は今すぐ運転に戻せ!!

原職奪還10.23スト

傲慢極まる配転強行

一月一日、「非効率店舗」として「五店舗」が廃止されることによる事前通知の動向が、この二三日にも強行されようとしている。われわれは当然のごとく売店廃止に伴っては、希望にそって運転関係への原職復帰をJR千葉支社に団体交渉で迫ってきた。

「九二・三ダイ改」交渉の中で、「会社は強制配転者の原職復帰について、組合以上に認識している」としてきた経緯があるにも関わらず、今日段階においても依然として何らの展望を示していない！

こうした団交経緯を反故にするかのようなJR千葉支社の姿勢は徹底的に糾弾されなければならない。

営業関係の強制配転者は、一〇・二三ストを背景に自らの力で原職への道筋を切り拓こうではないか！

そしてこの闘いは、三六協定交渉でも明らかのように、時間外労働の安定的確保などとする要員問題に直結する課題でもある。

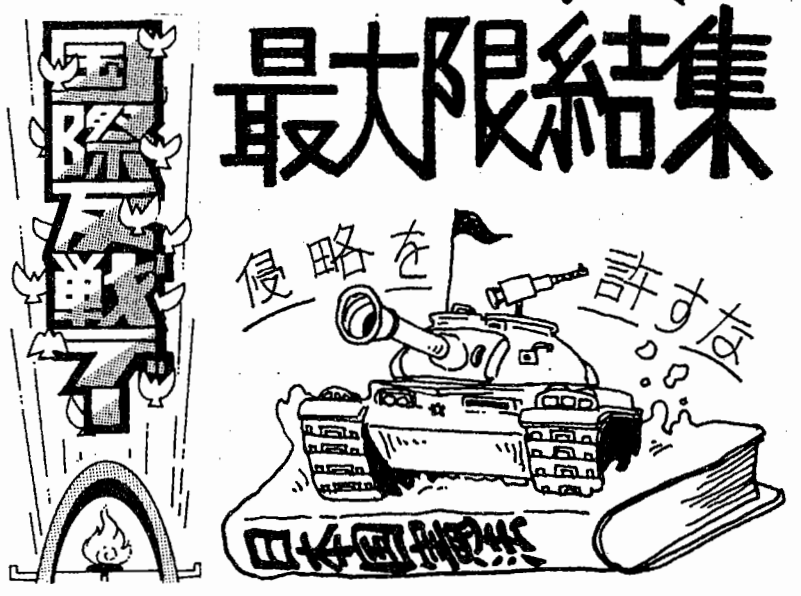
JR体制打倒 その突破口の斗い

何よりも「JR体制」による労務政策優先の動労千葉破壊攻撃に終止符を打つものとなるだけの力となり、「JR体制」打倒への反転攻勢への第一段の突破口となるものなのだ。

こうした状況の中で、JR千葉支社は一方的に一〇月一七日営業関係の組合員一名に対して、いすみ鉄道への配転通知を強行してきた。本来的に言えば当該組合員を勝浦運転区に戻し、希望にそっていすみ鉄道への出向者を決定すべきものである。このような対応こそ現在のこの傲慢まりないJRの姿勢なのだ。

「塩づけ」攻撃粉砕—組織破壊攻撃粉砕—強制配転者の原職復帰へ向け、全力で一〇・二三ストライキに営業から決起しよう！

10.21 弾兵出アボツカ 対反中訪皇天 集起決総 会集限最大



- ### ストライキの配置
- ①、一〇月二三日、営業関係強制配転者を対象とするストライキを配置し、要求の解決を図る。
なお時間帯については、一三時以降とし、別途個別に確認する。
 - ②、同日一八時より、千葉市民会館小ホールにおいて、「強制配転粉砕・スト貫徹、動労千葉総決起集会」を開催する。
 - ③、営業関係強制配転者については、その前段一五時より千葉市民会館特別会議室において独自集会を開催する。